

マレーシアにおける精神障害者の家族支援
－ 発達障害児の家族を通して －

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
人間形成・臨床教育クラスター
Koh Wei Quan

本研究はマレーシアで家族心理教育グループを用いて、精神障害者に対する家族の感情表出(EE)を低下させ、更に家族メンバー自身の二次的問題も改善する可能性を検討した。参加者は精神科医にDSM-5で発達障害と診断された発達障害児の家族メンバーであった。マレーシアで家族心理教育グループ(30分の心理教育と1時間半の家族会)を計5回実施し、三つの尺度「家族態度尺度」、「ベックうつ尺度」と「ベック不安尺度」を使った上で、半構造化面接も行った。

結果として、三つの尺度すべての平均点が下がった。また、家族メンバーとの半構造化面接の主題分析の結果、感情表出と家族メンバーの二次的問題(うつと不安)に関係があり、その関係には二つのパターンがあるということが判明した。一つ目は家族メンバーがEEのうち感情的巻き込まれすぎの一つの形である過保護を子どもに示し、自身が全力を尽くして子どもの世話をするが、子どもの状態が改善しないので自分が二次的問題を抱えるようになったというプロセスである。二つ目は、子どもに対するEEのうち、敵意と批判的コメントを示した家族メンバーの場合、二次的問題が最初に起こり、その後すべての問題は子どものせいだと思ふ気持ちから子どもにEEを示したというプロセスが見られた。更にグループの経過を観察し、尺度の点数の低下も理解できるようになった。結果の通り、家族心理教育グループの実施は可能であると考えられる。